

令和7(2025)年度  
運営に関する計画・自己評価

大阪市立梅香中学校

## 大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

校内アンケートでは「学校のルールを守っている」と感じている生徒の割合がここ数年 9 割を超えている。これは生徒一人ひとりが主体的に行動し、自制心や判断力が身についてきた証だと捉えている。また、「楽しく学校に通っている」や「授業が楽しい」、「自ら考えるようになった」の質問項目でも肯定的に回答する生徒の割合が 7 割を超える等、増加傾向にある。学校安心ルールの下で、落ち着いた学習環境・雰囲気の中で日常的に生徒が楽しく学校生活を過ごせるようになったことは人権学習や道德等の実践を積み重ねてきた成果である。現在、「あいさつ」ができていない学校、部活動の充実した学校、夜間遠足のある学校として保護者や地域の方々からの評価も高まってきている。今後は生徒の学力向上に重点を置いた学校づくり、カリキュラムマネジメントの充実が喫緊の課題である教職員が一丸となってより一層、教職員の資質の向上と生徒への質の高い授業を提供する等、保護者ときめ細やかな連携を図っていく。

チーム梅香中学校は、課題解消のため、校区小学校や此花区役所との連携を積極的に推進していく。課題の学力面をテスト結果から分析すると、チャレンジテストによる評定平均が下位層にあることがわかる。「平均正答率」では、すべての教科において大阪府、大阪市のそれより下回っている。また、昨年度の全国学力学習状況調査においても同様である。学校元気アップ事業や、今年度より始まる学校力向上支援チーム事業を効果的に活用し、放課後学習会や定期テスト前の自主学習会を充実させることで成果を期待する。

さらに、こどもサポートネット事業を活用し、生徒の学習規律の改善や環境の整備、生活指導における支援を通して、生徒の家庭学習の定着や規範意識の醸成を図るとともに、基本的生活習慣の構築不足を改善していく。また、学力への課題や心身の健全な育成を促すことで、生徒が「夢」や「目標」を持てるようなキャリア教育の創意工夫と様々な深い学びを通して、生徒の向上心や達成感を刺激し、一人ひとりの自尊感情を養うことをめざす。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の児童生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和 4 年度～令和 7 年度の年度末の校内調査において、学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を、毎年 100%にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和 3 年度より 10%増加させる。
- 令和 7 年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和 3 年度より 5%増加させる。

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現(言語についての知識・理解・技能)に関する項目の平均正答率を、令和3年度より4ポイント増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率5割以下の生徒を、令和3年度より10ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、授業を通して、基礎的・基本的な学力を身につけている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より5%増加させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.1ポイント向上させる。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童(生徒)の割合を、100%にする。
- 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合を、100%にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査・校内調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、肯定的に答えない生徒の割合を、令和3年度より15ポイント減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（保護者用）において、「学校には、他の学校にない特色がある」の項目において、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より10%増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を48.7%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、前年度より0.02ポイント向上させる。
- 規則正しい生活を身に付けている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を、令和7年度調査において、昨年度より1ポイント向上させる。

（学校独自の目標）

- 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。

(最終評価で記載)

## 大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

## 評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

| 年 度 目 標  | 進捗状況 |
|--|------|
| <b>【安全・安心な教育の推進】</b> <p>○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。</p> <p>○ 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、楽しく学校に通っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より2%増加させる。</p> <p>○ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、昨年度より増加させる。</p> <p>○ 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「学校では、生命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、昨年度より2%増加させる。</p> |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況  |
|--|-------|
| <b>取組内容1【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> <p>・ 慎重な生徒観察を軸に生徒指導に関する情報交換を密に行い、生徒状況の把握に努め、初期対応を逸しないよう心掛けるとともに「いじめについて考える日」の活用を図る。</p> <p>【指標】 生徒理解の取り組みとして、年間2回の教育相談の実施と令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。</p> | 生活指導部 |
| <b>取組内容2【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> <p>生活指導部を中心に、子どもの暴力行為に対する指導体制を整え、あらゆる機会を捉えて、暴力行為について指導し、暴力や暴言を許さない生徒を育む。</p> <p>【指標】 令和7年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を昨年度（1ポイント）より減少させる。</p>                                  | 生活指導部 |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  |                  | 進捗状況 |
|---|------------------|------|
| 取組内容 3 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】   |                  |      |
| 不登校の生徒に対しては、学年団を中心にその状況を適切に把握するとともに、不登校対策委員会を機能させ、学校元気アップコーディネーターや学校力UPコラボレーター、スクールカウンセラーと連携し、より丁寧な対応を心がける。                           | 生<br>指<br>1<br>年 |      |
| 【指標】 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を昨年度より減少させる。  | 2<br>年<br>3<br>年 |      |
| 取組内容 4 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】   |                  |      |
| ・教科書を基本に、生き方に関する感性や自尊感情を養うとともに年間指導計画に基づき、人権に対する感性を養う。   | 道<br>徳           |      |
| 【指標】 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「わたしは、学校のきまり、規則を守っている」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度と同水準を保つ。   | 生<br>指<br>部      |      |
| 取組内容 5 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】   |                  |      |
| キャリア教育や体験学習を充実させ、1年生で職業講話や出前授業、2年生で職場体験学習、3年生で高校体験入学および修学旅行を行う。   | 1<br>年           |      |
| 【指標】 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を昨年度(56.8ポイント)より向上させる。                             | 2<br>年           |      |
|   | 3<br>年           |      |
| 取組内容 6 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】   |                  |      |
| 教育活動全体を通して、生徒の規範意識育成はもとより、自他の生命や尊厳を互いに尊重する態度を育む。  | 生<br>指<br>1<br>年 |      |
| 【指標】 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）における次の各項目について、肯定的に答える生徒の割合をを昨年度より向上させる。<br>・「正しい言葉遣いでしっかりと挨拶している」<br>・「学校は落ち着いている」<br>・「梅香中学校の生徒であることを誇りに思う」 | 2<br>年           |      |
|   | 3<br>年           |      |
|   | 体<br>育           |      |
|   | 文<br>化           |      |

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年 度 目 標  | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を <b>50%以上</b> にする。</p> <p>○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も昨年度より <b>0.02ポイント向上</b> させる。</p> <p>○ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を <b>48.7%以上</b> にする。</p> <p>○ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、昨年度より <b>0.02ポイント向上</b> させる。</p> <p>○ 規則正しい生活を身に付けている児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を、令和7年度調査において、昨年度より <b>1ポイント向上</b> させる。</p> <p>（学校独自の目標）</p> <p>○ 令和7年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「授業はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、令和6年度より <b>2%増加</b> させる。</p> |      |



| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   |    | 進捗状況 |
|--|----|------|
| 取組内容 7 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】   |    |      |
| 中学校チャレンジテストの結果を分析し、得点向上に向けた取り組みに生かす。   | 国  |      |
| 【指標】 令和 7 年度中学校チャレンジテスト（プラス）における対市平均比を、昨年度より <b>向上</b> させる。  | 社  |      |
|  | 数  |      |
|  | 理  |      |
|  | 英  |      |
| 取組内容 8 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】   |    |      |
| 中学校チャレンジテストの結果を活用し、成績中位層の比率を上げる。   | 国  |      |
| 【指標】 令和 7 年度中学校チャレンジテストにおける正答率が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も昨年度より <b>0.02 ポイント減少</b> させる。   | 社  |      |
|  | 数  |      |
|  | 理  |      |
|  | 英  |      |
| 取組内容 9 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】   |    |      |
| 中学校チャレンジテストの結果を活用し、成績下位層の底上げを図る。   | 国  |      |
| 【指標】 令和 7 年度中学校チャレンジテストにおける正答率が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も昨年度より <b>0.01 ポイント増加</b> させる。   | 社  |      |
|  | 数  |      |
|  | 理  |      |
|  | 英  |      |
| 取組内容 10 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】  |    |      |
| すべての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的で深い学びの視点から学習・指導方法の改善を図るための実践研究を行い、成果の共有を図る。  | 国  |      |
| 【指標】 令和 7 年度の学校評価アンケート（生徒用）において、「学校の友だちとの間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている（グループ学習・ペア学習など）」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を、昨年度より <b>2%増加</b> させる。 | 社  |      |
|  | 数  |      |
|  | 理  |      |
|  | 音  |      |
|  | 美  |      |
|  | 保体 |      |
|  | 技家 |      |
|  | 英  |      |

|   |     |  |
|---|-----|--|
| 取組内容 1 1 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】  |     |  |
| 定期テストや授業での小テスト等を反復的に実施し、生徒自らが意欲的にテストに取り組む姿勢を養う。   | 国   |  |
|   | 社   |  |
|   | 数   |  |
|   | 理   |  |
| 【指標】 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における無回答率を昨年度より 1 ポイント減少させる。   | 英   |  |
|   |     |  |
|   |     |  |
|   |     |  |
| 取組内容 1 2 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】  |     |  |
| インクルーシブ教育システムの充実と推進をはじめ、生徒一人ひとりの能力や特性に応じた指導等を充実させる。   | 1 年 |  |
|   | 2 年 |  |
|   | 3 年 |  |
|   | 国   |  |
| 【指標】 令和 7 年度の学校評価アンケート（生徒用）における次の各項目について、肯定的に答える生徒の割合をを昨年度より向上させる。<br>・「各教科授業が楽しい、わかりやすい」<br>・「様々なことを自ら学び・考えることができるようになった」<br>・「学校には、他の学校にはない特色がある」 | 社   |  |
|   | 数   |  |
|   | 理   |  |
|   | 音   |  |
|   | 美   |  |
|   | 保   |  |
|   | 体   |  |
|   | 技   |  |
|   | 家   |  |
|   | 英   |  |
|   | 特   |  |
|   | 支   |  |
| 取組内容 1 3 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】  |     |  |
| 若手教員等の指導力向上と生徒の学力向上のため、校内研修担当、メンター、学校元気アップ等を機能させ組織的に取り組む。   | 管   |  |
|   |     |  |
| 【指標】 学力向上支援チーム事業を活用し、教科授業の充実を図るとともに放課後学習会を計画的に週 3 日程度行う。  | 理   |  |
| 取組内容 1 4 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】  |     |  |
| 授業において、重点的に持久力を向上させる内容を実施するとともに、体育的行事の実施回数を増加させる。   | 保   |  |
|   |     |  |
| 【指標】 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である男子 20m シャトルラン（持久力）の平均の記録を、昨年度より 0.1 ポイント向上させる。   | 健   |  |
|   | 体   |  |
|   | 育   |  |

大阪市立梅香中学校令和7(2025)年度運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった

D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年 度 目 標  | 進捗状況 |
|--|------|
| <p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。</p> |      |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   |             | 進捗状況 |
|--|-------------|------|
| 取組内容 1 5 【基本的な方向 6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】  |             |      |
| 一人一台パソコンを利用して教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進を図る  | I<br>C<br>T |      |
| 【指標】 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 5 0 % 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕 |             |      |
| 取組内容 1 6 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】  |             |      |
| 「災害防止計画」に基づき、災害時に備えた訓練を実施するとともに、区役所等、関係諸機関と連携して防災教育の取り組みを行い、防災への意識を高める。                        | 健康教育部       |      |
| 【指標】 令和 7 年度において、家庭・地域・区役所との連携を踏まえたキャリア教育や防災教育・訓練を年 1 回以上実施する。                                 |             |      |
| 取組内容 1 7 【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】  |             |      |
| 働き方改革のさらなる推進を図り、教職員が働きやすい環境を整備する。  | 管理職         |      |
| 【指標】 ゆとりの日の設定を、月 1 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。             |             |      |
| 取組内容 1 8 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】  |             |      |
| 「魅力ある学校づくりの推進」を進めるため、学校ホームページで校内外の授業や活動の様子を掲載し、地域に開かれた学校をめざす。                                  | 管理職         |      |
| 【指標】 ホームページで授業の様子を掲載して、アクセス件数を昨年度比 1 % 増加させる。  |             |      |